国際ロータリー　第 2500 地区　第 8 分区　　JAPAN CHARTERED

弟子屈 ロータリークラブ 会報

2010～2011年度　RIテーマ

地域を育み 大陸をつなぐ

RI 会長：レイ・クリンギンスミス　　2500 地区ガバナー：柴田　和明

【2010-2011 年度　弟子屈 RC 理事・役員】

●会長（理事）今井善昭　●直前会長（理事）今井正蔵　●会長エレクト（理事）小林寿男　●副会長（理事）木暮敏男
●幹事（理事）桐木茂雄　●会計（理事）伊藤幸雄　●会場監督（理事）小家山勝　●職業奉仕（理事）筒井庄一
●社会奉仕（理事）鈴木幸栄　●国際奉仕（理事）竹森英彦　＊地区　●会員増強委員　今井正蔵

2011 年 1 月 26 日(水)　本年度 第 28 回　通算 2680 回　例会

- ■ 開会点鐘(12:30)
- ■ ロータリーソング　手に手つないで
- ■ 食事
- ■ 会長報告
- ■ 幹事報告
- ■ 委員会報告
- ■ 本日のプログラム
- ■ 寄付報告
- ■ 出席報告
- ■ 閉会点鐘(13:30)

★２月のプログラム

◇2 日～通常例会・「世界理解」(国際奉仕委員会)

◇9 日～通常例会・林隆雄プロジェクト委員会最高顧問　卓話

◇16 日～通常例会・筒井会員「料飲店の今昔」

◇23 日～通常例会・伊藤会員「金融情勢について」(プログラム委員会)

【会長報告】昨日は何年ぶりかで熱を出してしまい、病院に行くと直ぐに隔離部屋での検査となった。長時間待っての結果は、心配していた「インフルエンザ!!」ではなかったのでホッとした。翌朝は薬で熱も下がり、薬って恐いなあと感じた。３月には、肩の筋の異常で入院の予定、迷惑かけます。　「RI 意義ある業績賞」に載っている、昨年の川下りと今回の「陶板絵画展」が川湯のギャラリーで行っている。来月は幼稚園児の陶の時計の展示、見にきて欲しい。

【幹事報告】野田口会員の退会について～12 月 19 日に「退会届」を受取り 12 月 22 日の理事会（同日の会報にて議題を掲載）にて承認した(会員数･19 名)2 月の R･rate=¥84 財団の寄付未だの方、お早めにお願いします。
次年度、地区協議会・セミナーは 4 月 23・24 日―旭川、地区大会は 9/30 日～10/2 日。

【委員会報告】鈴木社会奉仕委員長～9 日の成人式での小家山会員の尽力へのお礼、(川下りの際も会長に)
今日は委員長らしく、「ロータリー文庫」、弟子屈小学校で６年生が卒業するまでに読んでもらう本を選びにこれから行ってまいります。

本日のプログラム小家山勝会員組織委員会最高顧問･卓話　先週の万代会員に続いてロータリークラブについて話を頂いた。特に弟子屈 RC の「創立 20 週年記念式」（小家山会員が入会して 1 年半時）の初代幹事の回顧録の一部を紹介してくれました。非常に貴重と思い、そのまま **B 面**に転写しました。また、弟子屈 RC は「日本で最初の町村クラブ」とあるが、実は野付牛(現北見市)RC は戦前に発足し、戦時中に RI から退会となる。後,S27 年に北見 RC として 28 番目に登録されたが以前の名は残っていない。こんな話を他クラブへメーキャップした時の 3 分間スピーチにしたら面白い、ロータリアンは皆平等なので普段、会えそうもない人の隣に席を取るのも結構、大いに利用すべきだ。／／**ロータリーの２本の柱**、「親睦と奉仕」の「親睦」と「親睦活動」の意味は違う。親ぼく会、交流会、同好会、ゴルフなどの親睦活動は大事なことだが、クラブ奉仕の補助的活動である。一方の「親睦」は、その最初の場所が週一回の例会であり、中身の濃い例会ができるよう環境整備しなければならない。
SAA(会場監督)の職務と権限～例会場の秩序を保つためのあらゆる権限。職務は、例会の司会進行(議長は会長)、例会場への入退場の許可、早退遅刻の承認・拒否、私語の警告、卓話の時間励行、例会場の秩序を乱す行為に対する警告・命令、テーブル・座席の配置食事・業者の選定手配、ニコニコ箱の管理・寄付の報告などである。
弟子屈 RC の創立時は会員数 22 名、現在は 19 名。なんとか、元の数字になるよう会員増強し、このクラブを発展させたいと思います。

本日の寄付

ニコニコ-----¥5,500

財団--年次寄与(１人 3,000 程)

寄付コメント

林　会員～　――
今井会長～熱が下がりました。
小澤会員～お疲れさまです。
伊藤会員～お役にたちますように

出席報告(田中会員)
会員数----19 名
出席数----15 名
免除者数　　１名
出席率---84.2%

本日の昼食は、「カツ丼」

創立20周年記念式

『創立当時の想い出』

弟子屈ロータリークラブ
初代幹事　根　津　文　男

今から10年前、クラブ創立10周年記念行事を実施するに当り、クラブ10年間の歩みを記そうと初代幹事の私が記録を読み、会報を集計整理し、苦心さんたんの１年間を費したが努力が実らず、遂に陽の目を見ずにここに20年を過ごしてしまった。
誠に残念、無念、まさに慚愧の至りである。

今、創立20周年の輝かしい日を迎え、あの昔日の苦労を偲び語ろうとしても、唯々忘却の彼方に去り、クラブを去った会員、亡くなられた会員、又現在も元気で活躍しているチャーターメンバー、正会員の方々の日頃が去来するのみである。

初代池田会長が常に誇りをもって言っていた「全国町村から初のクラブが生れた」…その当時のクラブ設立経過を記録から抜粋してみたい。

弟子屈ロータリークラブの結成は、32年度60地区伊藤ガバナーが釧路クラブ公式訪問の帰途、阿寒国立公園の探勝のため、弟子屈グランドホテルに宿泊したときに、当時の釧路クラブの泉会長、小笠原幹事の両氏に国立公園観光のロータリアンとして弟子屈温泉市街にロータリークラブが生れたら便利であろう、との話から設立の動機が芽生えたのである。
然し人口僅か一万人足らずの温泉地に崇高なる精神と社会奉仕の理念を具現する、高尚なロータリークラブ実現は、困難と考えられることもあって全国のクラブから注目された。
そうした実情の中にも、特別代表として釧路クラブ両角克治氏、三原正二氏、両角純三氏栗原定四郎氏、村上祐二氏、小笠原進氏が数度に亘る来弟と、熱心な説得により、遂に32年２月４日その輝かしい出発のための第１回会合をグランドホテルにもつにいたった。
弟子屈町側からの世話人は、池田信盛氏、小山藤作氏、長谷川理則氏と根津の４人が参加し、懇談した。引続き４月６日釧路クラブ有志と地元４人が会員適格者を戸別に訪問し、ロータリークラブの心要性を説明し、午後４時から再びグランドホテルに於いて、設立のための話し合いに入った。その後、釧路クラブ両角特別代表及び各役員のご努力と、地元世話人の苦心が実り、４月26日午後1 時から弟子屈グランドホテル大広間に於いて、創立総会が盛大に挙行されたのである。実に会員22名の構成による日本で最初の町村クラブ弟子屈ロータリークラブがここにうぶ声を挙げた次第である。総会は、池田会長の司会で進行し、釧路ロータリークラブ経由で池田会長宛に国際ロータリー幹事ジョージ・アール・ミーンズ氏より、我が弟子屈ロータリークラブに国際ロータリー加盟認承状が到着、池田会長の手にしっかりと渡された。32年６月22日、まさに記念すべき日である。

つたない私の回想ではあったが、弟子屈ロータリークラブの輝かしい第一歩の記録をひもといて、創立当時の想い出としたい。

本日当クラブの創立20周年記念行事にあたり、万障おさしくり合せの上御出席を賜りました各クラブの皆々様、又、当クラブ創立のためにご努力と愛情をそそがれ、終始暖かいご指導、友情を与えてくださいました、釧路クラブの諸先輩の皆様に私は謹んで心から深く深くお礼を申し上げる次第でございます。